

平成 29 年度 第 4 回ひきこもり支援等検討委員会会議録（案）

■日時：平成 29 年 11 月 28 日（水）10：00～11：30

■場所：総社市総合福祉センター2 階 教養研修室

■参加者

【委員】安本 美喜男（総社市民生委員児童委員協議会）・山本 繁（総社市福祉委員協議会）・西田 和弘（総社市生活困窮支援センター協議会）・藤井 基弘（藤井クリニック）・平野 悦子（総社市保健福祉部）・内田 和弘（総社市保健福祉部健康医療課）・新谷 秀樹（総社市保健福祉部福祉課）・林 直方（総社市保健福祉部長寿介護課）・井上 徹（総社市教育委員会学校教育課）・田頭 羊子（岡山県備中保健所）・吉田 哲也（倉敷中央公共職業安定所総社出張所）・佐野 裕二（総社市社会福祉協議会）・直島 克樹（川崎医療福祉大学医療福祉学科）

※欠席（安部 久仁子・中山 遼・三上 啓子・横田 優子・周防 美智子）

【オブザーバー】貝原 翠（岡山県社会福祉協議会地域福祉部）

【事務局】近藤 美保子（総社市保健福祉部福祉課）・中井 俊雄・佐々木 恵・高瀬 智早（総社市社会福祉協議会ひきこもり支援センター）（敬称略）

■開会：西田委員長あいさつ

インフルエンザのワクチンは 12 月に入ると安定供給される予定なので予防しましょう。

■報告事項

- 第 1 回全国屈指福祉会議について
（平野副委員長）2 ページ参照。

10 月 16 日に開催された。今までの状況報告と次に向けての課題を市長から提示があった。「ひきこもり支援部会」では、「ワンタッチ 207」で、ひきこもり支援センターの設置できたこと、サポーターの養成も順調に進んでいること、居場所の設置も目星が立ったこと、小学校との連携もできていて実際に 10 代の相談も入っていることを報告した。さらに、「全国屈指の福祉先駆都市」を深化させるために、総社流の施策を検討するということで、「ひきこもりからの社会参加 100 人」を達成しようという策を検討する課題として提示されたところである。ひきこもり支援部会とも相談のうえで、一人でも社会にでていただける方を目指し、五年計画での 100 人ということで提示し、今度の検討課題として出された。西田委員長からは、まだ全国に数が指で折れるくらいのひきこもり支援センターの設置である。それも単市事業での設置は総社市唯一ではないか。ここで一年経過したところで、全国サミットをしてはどうかというご提案をいただいた。市長も大きくならずいておられた。本日の議題にもつながる内容になっている。

(西田委員長) 都道府県政令市レベルでの取り組みでは生活困窮者自立支援法に基づいていて、頑張っている自治体もたくさんあるが、普通市としてこれだけの取り組みをしているというのは極めて稀であり、総社が一番先を進んでいるのではないかと答え、ついでには今後も先頭を走り続けるという意味合いも含めて旗を振り、頑張っている自治体に集まっていただき、何か企画をしたらどうかという提案したところ、市長も大変興味をもっていただいた。本日、中身を詰めていきたい。センターの目標値ですが、なかなかハードルが高いところが設定されており、目標に向かって頑張りたい。

(平野副委員長) 5 ページ参照。総社市は「全国屈指福祉会議」で「ひきこもり支援部会」は新たに今年度から設置された部会だが、他に「高齢者支援部会」、「医療体制整備部会」、「待機児童ゼロ部会」、「発達障がい児支援部会」、という部会がある。新たに、「障がい者支援部会」ができ、「障がい者 1,500 人雇用を推進」しているという目標で新設された。6 部会で福祉先駆都市を目指す。

●ひきこもり支援センター「ワンタッチ」の実績について

(事務局) 6 ページから参照

- 10 月末付けで延相談件数 940 件（訪問 262 件、来所 265 件、電話 377 件、e-mail36 件）
- 実相談者数は、11 月 27 日付では、81 名となっている。男性が 62 名、女性が 19 名となっている。本人と接触できている相談は 34 ケース、家族のみの相談は、27 ケース、その他 20 ケースについては支援機関への情報提供はなども含まれている。
- 第 3 回ひきこもり支援等検討委員会以降の動きでは、実際の取り組みとして、ボランティア体験が 1 名増え、トータル 3 名の方がボランティアを体験で活動している。
- センターの動きとしては、9/25 にひきこもり支援実務者会議、模擬居場所としては、9/26 ゲーム大会、10/18 と 10/30 はサツマイモ掘り、10/31 は卓球をしている。
- 約 2 年間かけて今まで民生委員さんのご協力をいただき実態把握をおこなってきたが、感謝と半年のセンターの実績報告のために、全地区の民生委員児童委員協議会に出席した。
- 15~16 ページ参照。前回の第 3 回の委員会で紹介した事例で、変化があったものを掲載している。家族事例①は、前回からの変化だが、その後短期間就労していたが、その後も真面目に仕事に取り組む姿が評価され、10 月、11 月も単発ではあるが、1 週間に 2 日の 7 時間就労をしている。また、ひきこもりサポーター養成講座の案内をすると、「自分もひきこもりに該当する部分を知りたい」とい思いで、第 2 回の講座から参加している。本人事例①は、特養でボランティア体験をしているが、継続し振り返る中で、「もう少し時間を延ばしたい」との希望があり、1 日 7 時間に変更し継続中。また、施設内で趣味の映画について話すことができる職員ができ、よく雑談しているという報告も受けている。

(佐野委員) 民生委員児童委員協議会定例会に今までの報告を兼ねて出席したが、初めは民生委員さんも福祉委員さんも、今後自分たちがどのような支援していくのかなどの不安を抱えられていたが、各地区民協に出席し報告する中で民生委員はどのような意見をもたれたか、感想をもたれたか聞かせてほしい。

(事務局) 民生委員さんは社協だよりや広報誌のひきこもりについての特集を御覧いただいて、ひきこもりに対する理解が少し和らいでいる。実態把握の調査時になかなかひきこもりについて受け入れにくい地域があったが、その地域の民生委員さんから相談があり、地域の方にも挨拶し、家族 3 人ひきこもっている家庭であったが、そこへセンター職員と地域包括職員で何回か訪問を重ねることで、その家族に会うことができるようになった。そこから、疎遠になっていた親族もその家族に会うことができるようになったと民生委員さんから報告を受けた。そのことで地域がひきこもりについて少しずつ理解してもらえていると感じた事例であった。

(安本委員) 抵抗はないが、普通に受け入れという状況でもない。やはり、タブー視されていると感じることはある。しかし、専属職員が配置されたことで、少しずつ変わってきたように感じる。

(平野副委員長) 成功事例を聞くと安心するが、それだけでなく、やりづらさなど苦労話を教えてほしい。なかなかタッチできないなどの話も聞きたい。

(事務局) 本人に会えているケースではあるが、支援については拒否気味というケースがある。きっかけは祖母のケアマネジャーが、祖母が本人のことを心配しているが、母親に言ったら自分がいじめられるのではないかと不安があるとの相談があった。ケアマネジャーからは祖母が相談者ということを知られたくない、また、ケアマネジャーが相談したということも知られたくない、そこをクローズにして関わって欲しいとの依頼があった。過去に祖母が本人の母親から虐待に近いようなこともあったので、言えなくなっているという状況。過去に生活困窮支援センターで一度関わったこともあり、「その後の調査です」ということで連絡したが、「何も困っていることはありません。本人は、元気で仕事をしています。」との返答であった。拒否をされた。ケアマネジャーと相談し、本人が通院しているのでその病院の医師から健康医療課へ情報提供しても良いかと本人の了承を得て、健康医療課の保健師と一緒に訪問を始めた。「どうですか」と本人に質問をしても、「大丈夫なので来ないでください」という雰囲気であった。一応、「また来ても良いですか」との質問には頷いてくれるので、あまり関係が進んでいるとは限らないが、細々と訪問を続けているケースもある。

(西田委員長) 確かに成功事例だけでなく、なかなかうまくいかない事例で学べることもあるので、うまくいかな事例もまとめておいて欲しい。

(安本委員) 相談者の中に市外の方が 6 名いるが、どういうところで総社市のひきこもり支援について知って相談しているのか。

(事務局) 市外の方から相談が多かったのが、4 月 11 日に開設したことをメディアで報道されたことがきっかけであった。テレビやインターネットで必死で調べてと言う方が多かった。

(西田委員長) わらをもすがる気持ちで連絡してくるのであるから、むげにはできな

い。各自治体に設置していくのか、広域でいくのか、市外の方への支援は限界がある。

●ひきこもりサポーター活動実績について

(事務局) 前回の委員会からの活動報告だが、発達障がいについて理解を深める内容で第 2 回フォローアップ研修、定例ミーティングを 3 回、当事者・サポーター・センター職員とのゲーム会やサツマイモ掘り(2 回)をした。

●第 3 回支援者養成ワーキンググループについて

(佐野委員) 支援者養成WGの周防委員長が欠席のため、WGの副委員長から報告する。11 月 16 日に開催。第 3 回ひきこもりサポーターフォローアップ研修、ひきこもりサポーター養成テキスト作成について(案)協議した。特に、ひきこもりサポーター養成テキストについて協議し、できれば今後、養成テキストの入門編、基礎編、応用編を順次作っていききたい。できれば、来年 7 月予定のサミットの時に入門編を完成させ広めていききたいというスケジュールも考えたが、なかなかセンター自身の取り組みの成果が出ていない状況で、入門編を作るのは難しいのかなという意見がでた。なかで、今回のサミットについては、今まで取り組んだ養成講座の内容をまとめたものやこの三年間のひきこもり支援の取り組みをまとめたような報告書をもって、全国の方へアピールするのはできるということで、WGでそういう結論になった。入門編については、検討委員会でご意見をいただければと思う。

(西田委員長) テキストについては、親会のこの委員会で方針を決めて、WGにこの方向でやってくれというお願いをする形の方がWGとしても、細かいところをつめていけるので、後程、協議事項のその他で再度議論したいと思う。

■協議事項

●会議録の承認について(平成 29 年 9 月 20 日開催分)

22 ページ参照。

(西田委員長) ご承認をいただきたい。無いようであれば、承認ということでお願いしたい。

●社会参加(居場所運営・就労等創出)ワーキンググループ会議開催について

(事務局) 31 ページ参照。ひきこもり状態にある方が、家族以外との関係を築くことができることを目指して、就労体験等の多種多様な経験や体験ができる機会をつくることをはじめ、居場所の創設等を協議することを目的とし、開催予定。全国屈指の福祉先駆都市の目標に、「ひきこもりからの社会参加 100 人」を達成とあるため、「社会参加の定義についての検討していただきたいと考えている。また、居場所の設置・運営についての検討、多様な就労形態の創出に向けての検討、高等学校卒業程度認定試験や専門的資格取得支援の検討、市内社会福祉法人との連携による社会資源の創出についての検討していただきたいと考えている。12 月後半から隔月(今年度 2 回)程度開催し、構成メンバーの方には前もってお声かけしている

が、このメンバーの方々をお願いしたいと考えている。

(田頭委員) 実務を担当しているものに入ってもらおうと思うので、森本保健師に入ってもらおうと思う。

(西田委員長) 決して親会の委員でないといけないことはないのですが、実働部隊と考えて良いので、今のご提案とおりで良いと思う。

(安本委員) 総社市内の企業経営者などできれば入ってもらえばよいと思う。私の名前もあるが、会議が多いので他の方に参加していただければと思う。

(西田委員長) 確かに、民生委員・福祉委員の方々にはご苦勞をおかけしているので、常時メンバーでなくても良いので、ちょっとご意見いただきたいという時にご参加いただく形でも良いと思う。必要に応じてお願いするというだけでも良いか。

(佐野委員) やはり地域の方にも参加いただきたいという思いがあるので、民協の中で検討していただき、どなたか参加していただくという形で良いか。

(安本委員) 副会長も3名いるのでその方々と相談する。

(西田委員長) 総社の企業の方々となると、商工会議所なのだろうか。商工会議所の構成員は大きい企業も入っているのか。

(平野副委員長) なかなか特定の事業所を選定するのは難しいだろうか。障がい者の関係では何か企業が入っているのだろうか。

(佐野委員) 商工会議所に相談させていただくという形で良いか。

(西田委員長) 経営サイドの方に入っていただくという方向で、中間的就労、一般就労となると中小零細企業だけでなく、ある程度の規模がある企業に参加していただく方が特殊な雇用形態にも余裕があるかもしれない。

(吉田統括) ウイングバレイは、雇用開発協会の構成員。

(藤井委員) アクティブに考えてくれるのは、青年会議所などが面白く動いてくれる可能性がある。

(山本委員) トラック業界も人手不足で困っているの、ひょっと免許を持っているひとがいれば雇用してくれるかもしれない。

(西田委員長) 経営者側の意見も取り入れてほしい。内容の「社会参加」の定義の検討をWGでする必要はあるのか。

(事務局) 社会参加 100人ということで全福の方でたことで、「社会参加」は人それぞれなので確認という形で、文字化をしていきたいと考えている。先日、斎藤環先生の講演で「社会参加」には就学や就労だけでなく、親密な仲間関係ということが含まれると定義されていた。以前、西田委員長には、社会福祉サービスを受けることも社会参加の一つではないかというご指摘もあり、そのあたり、みなさんの統一意見として総社市では「社会参加」はこういうことを言うのだと文字に起こしておきたいと思う。本委員会にかけていただく予定だが、まずは案としてWGでとりまとめていただきたいと思う。

(西田委員長) 「ひきこもり」の定義も本委員会を決めたので、「社会参加」の定義も本会議の方で検討した方が良いのではないだろうか。WGは実働部隊ということで、社会参加の定義については、本会で検討していただきたい。

(事務局) 次回、事務局案ということで定義させていただき、次回の委員会で議論をい

ただくということにさせていただきます。

(西田委員長) 内容は、「社会参加」の定義は、本会で検討する。構成メンバーについては、民協は会長ではなく然るべき人をご推薦いただき、備中保健所については森本保健師に出席いただき、経営サイドの方に入ってくださいこととする。以上の修正をふまえてご承認いただきこととする。

●ひきこもり家族会の設置について

(事務局) 32 ページ参照。10月31日に第1回ひきこもり家族会設立準備会を開催した。4名の家族と、オブザーバーとして田頭委員にご参加いただいた。家族会に求めるものとして、家族にも「友達」が必要であるという意見や色々な情報が欲しいというような意見があった。研修については、自分たちも話すことができる参加型の研修が良いという意見があった。情報交換会もグループワークのように堅苦しいものではなく、もっと自由な話をしても良いし、話さなくても良いというようなものが良いという意見があった。その意見をふまえて、平成29年度ひきこもり家族向け研修交流会の開催要項(案)を作成している。

●居場所の開設について

(事務局) 35 ページ参照。10月に居場所用の一軒家の賃貸契約をした。場所は中央1丁目で、センターから徒歩3分に位置する平屋1戸建ての3DK。電気、水道を通して居場所の開設については、社会参加ワーキング等で検討していただきたいと思っているが、まずは、居場所をクローズにするのではなく、みなさんに知っていただくためにも、オープンで運営していきたいと考えている。開設式(時間・内容)、愛称・名称、運営(日時・コンセプト・内容)、スタッフ体制などについて検討したい。三番目の開設についてだが、今年度中に開設したいと考え、初めは、週1回半日程度でセンター職員、ひきこもりサポーターとイベント型でできたらいいなと考えている。また、その後慣れてきたら、みなさんに知っていただき、居場所に来られる方が増えたら、毎日の常設と考えている。スタッフ体制については、有償や無償という内容も検討していきたい。

(西田委員長) 細かい点は、社会参加ワーキングで考えていくにしても、大枠は本会で決めていただきたいという提案だと思う。

まずは開設式についてだが、ひっそりとではなく、きちんと地域の方や世間にオープンしましたとアピールできる形でよいのではないかという方針についてはどうだろうか？確かに、こっそりオープンして不特定多数の方が出入りしていると地域の方も不安を覚えさせることになる。ひきこもりの問題を、逆に私たちが隠すというやり方になると思う。開設についてはオープンしましたという正式な形をとるという方針でよろしいか。開設時期は、今年度予算があるので、年度内にオープンの方が市との関係でも良いのではないか。

(事務局) 具体的な内容を決めるワーキングを12月下旬に予定をしており、次回の支援等検討委員会を1月30日に開催予定させていただきたいと思っている。1月30日に最終承認をいただき、その後開設というタイミングが良いのかなと考えて

いる。早くとも2月上旬と考えている。ひきこもりサポーターの協力をいただき、町内の役員への説明等もあると思っている。

(西田委員長) 来賓の相談などもふまえると平日開催が難しそう。有職者やサポーターも仕事をされている方が多いので週末開催がよいのか。

(事務局) サポーターに関しては、平日日中も動いていただける方とお願いしているのでどちらになってもかまわないと思う。

(西田委員長) 本会では、年度内開設は必須であると考えている。来賓はどのように考えているか。

(事務局) 委員会の構成メンバー全員、委託元である総社市の市長、議長、ひきこもりサポーターのみなさん、今年度末となれば今年度受講のサポーターのみなさん、町内会役員などを想定している。また、借家でもあるので大家さんにも声をかけたい。

(西田委員長) 式典の進行等は事務局で案を考えてもらい、お声かけをする方などはないだろうか。

(佐野委員) 担当地区の民生委員、福祉委員はどうか。

(西田委員長) 愛称ないし名称をつけるのかつけないのか、看板をかけるかかけないか、オープンにやっていくのであれば看板が必要。

(平野副委員長) 私たちが行くにも「あそこに行く」というのでは伝わりにくいので愛称があったほうがよいと思う。

(西田委員長) 愛称をどのように決めるか。以前、権利擁護センターで愛称を公募して苦い思いをした。

(事務局) 支援センターが「ワンタッチ」、家族会が「ツータッチ」、居場所が「スリータッチ」という意見があった。色々、名前があると混乱することもあるので、「タッチ」で統一されている部分では分かりやすいと思う。

(平野副委員長) 私も「タッチ」は悪くないかなと思う。

(山本委員) 「タッチスリー」はどうか。

(西田委員長) 早めに決めないと開設式に間に合わない。

(事務局) 市の委託事業ということもあるので、市のご意向も保管し、いづらか委員のみなさんから案を集めたうえで、市長との協議も必要なので、1月30日に報告できればと思う。

(西田委員長) 各委員から、事務局へ連絡してもらい、取りまとめて、事務局と委員長、副委員長で絞り、市長に協議する形でよろしいか。

(藤井委員) 事務局から、居場所の愛称についてなげかける形のメールをもらうと良いと思う。

(西田委員長) この曜日のこの時間だったら、居場所に行くことが出来るという定期開催でしてもらいたい。この会議が終わり次第、場所も近いので、事務局が案内し、委員のみなさんで見学したい。

●ひきこもり支援サミットについて

(事務局) 36ページ参照。主催として、実行委員会形式でしたらどうかとの提案である目的にもあるが、独自に行う小規模自治体やその事業実施を担う社会福祉協議会

が集うということ想定とする範囲である。後援団体としては、厚労省、県、県社協というイメージである。定員 1,000 名とあるが、市民会館のイメージ。午後からの開催で、オープニングを行い、サミットであるので首長サミットとイメージしている。参加者には、愛知県東海市なども候補として入ってくるのかなとも思う。オブザーバーは加藤大臣がよいのか、特にひきこもり支援が、厚労省なのか内閣府なのか教育系なのか議論があると思うが、そういったイメージである。基調講演としては、斎藤環先生がどうかとイメージしている。その後、実践報告として首長サミットに登壇いただいた中から選出をし、報告いただく予定。その後、第 1 回のサミットであるため、次回への引継ぎを工夫していく必要がある。全体の総括もだが、ひきこもり支援をしている自治体のネットワークができないかと考えている。全国ネットワークの結成も併せてできればと考えており、首長サミットの最初で次回開催予定地を決めてもらい旗を渡すということも閉会のイベントでできたらと想定している。一番下の四角の枠の中は、実行委員会の組織構成も考えていなければと思う。記載の自治体は、センターを開設していたり、取り組みでアンケート調査をしていたりしているところである。その他としては厚労省や以前お呼びした池上正樹さんに入ってもらえば、この枠で入っていただくのも良いと思う。スケジュールとしては、実行委員会への参加呼びかけ、1 度は実行委員会を開催し、開催のご案内を全国に発信していく。1 日日程で懇親会も企画したい。1 日で終わるプログラムということにしている。

(安本委員) このサミットは、5 時間になるので長い。参加者がもたないのではないかな。

(西田委員長) おそらく一般市民対象というよりも、自治体や社協の職員、実際にひきこもり支援をしている NPO などを全国から集めようという趣旨なので、そうすると 5 時間で休憩をうまく挟めばありうると思う。しかし、市民の方で興味がある方にとっての 5 時間は辛い部分もあるかもしれない。今は、全国の首長サミットを壇上でしてから、基調講演をする内容だが、別室で基調講演の裏時間に非公開でも良いと思う。首長サミットで決めてもらいたいテーマを 3 つぐらい市長にお願いし、決まったことを最後に首長サミットでの決定事項ということで報告してもらおうというような形はどうか。聴衆向けには、基調講演を行うと、時間も短くなるのではないかな。

(平野副委員長) 首長に、基調講演を聞いてもらうのが良いのか、実践報告を聞いてもらう方が良いのか、帰って活かしてもらうのか、逆に良いと思う部分だけもって帰られると、職員が大変になることもあると思う。

(西田委員長) 各自治体が首長にレクをすると思うが、レクしてもなかなか把握してもらえない場合、自分の町の実践報告をその場にて聞けば、そうだったと思ってサミットに臨めるかもしれない。首長と大臣で懇談してもらっても良いと思う。最後に、片岡市長から決定事項を報告してもらうのが良いかもしれない。

(藤井委員) その時に壇上に並んでいただく形が良いのではないかな。

(佐野委員) 壇上で首長サミットをすると時間調整が難しいかもしれない。

(西田委員長) 3 つ程度決めてもらったものを「ひきこもり支援総社市宣言」というよ

うに出して新聞に載せてもらうのも良いと思う。

(平野副委員長) 市長との協議もできていないが、心づもりもできていると思う。裏側でサミットをするという案で良いか。

(林委員) 加藤大臣を呼んで裏側でということが良いのか。

(西田委員長) 表舞台で、首長サミットの時にオブザーバーで参加しました、有意義な会議がありましたなどの挨拶をもうければ良いと思う。あまり大臣を時間拘束できないので、間髪いれずに首長サミット終わったらすぐに壇上に登ってもらうようにしていく。

(平野副委員長) 市長と相談になると思う。

(西田委員長) 表になるか裏になるかは、行政にゆだね、それ次第で進行を決めていく。基調講演の候補は、斎藤先生か宮本先生かとあるが、何か意見あるか。今、90分で時間をとっているが、60分にしても良いのではないか。むしろ、参加者は実践報告に興味があると思うので、実践報告に余裕をもたせてもよいのではないか。

(直島委員) こういうサミットをする時に、当事者不在にならないようにしないといけない。どうしても行政が実践報告も行うとなると置き去りになるので、離れていくのではないかと危惧される。幸福サミットというのがあるが、それは地域に住んでいる住民がフラッグを引き継いでいく。当事者と一体的にする。地域福祉のサミットをしている。当事者へ配慮する必要がある。

(西田委員長) 今回は法律上義務ではないのに頑張っている小規模自治体が一番適切に対応するので小規模自治体の取り組みをどんどん促進していこうという趣旨なので、行政、社協もっと全国頑張ろうというニュアンスのものなので、今、言われた目線はかけているがやむを得ないかなとも思う。ただ、そこを埋めるのであれば。

(直島委員) 裏企画で叫びを聞こうのような、せっかく小規模自治体に来てその利用者にも来てもらい、その人たちの声を発信する場を設けるなどの裏企画があってもよいのかなと思う。

(西田委員長) 基調講演のように堅苦しくするのではなく、当事者、家族を含めた鼎談や座談会をするのもありかも。

(平野副委員長) 実践報告の中に組み込んでも良いのではないか。

(佐野委員) 全国家族会の方に話をしてもらっても良いのではないか。

(平野副委員長) 藤里で支援を受けた方が報告してもらっても良いと思う。

(西田委員長) 実践報告などで当事者目線がきちんと入るように心がける。

(林委員) 目的のところだが、今までの話を聞かうえて、「法では決められていないが、小規模自治体の行政や社協が頑張っ取り組んでいこうよ」と目的の中に出し、当事者目線も入れると目的を作り、こういうプログラムを作る方が良いと思う。小規模自治体という言葉よりも基礎自治体という言葉が良いのではないか。

(西田委員長) 基礎自治体となると政令市は外れるので、基礎自治体で良いと思う。政令市と都道府県はセンター設置が義務付けられているが、普通市もいっさい責任がないというわけでもなく生活困窮のほうでひきこもり支援は対象になっているが、センター設置し独自の取り組みをまでは法律上求められていない。その中で、市、

町、村があり、集まって取り組みを広げていこう。当事者を置き去りにしてはいけない。7月にこのサミットを開催する、ただし目的やプログラム内容については、本日はおおむねこの内容が良いが確定できないということで、1月のこの委員会で決定しないと間に合わないと思うので、お呼びする自治体については、内内で打診をすすめて良いと思う。首長が出席できないのであれば、副首長でもかまわないとする。次回、本日の修正案を踏まえた事務局案の提出をお願いする。

■その他

◆ひきこもりサポーター養成テキスト作成について

(西田委員長) 本委員会での方針を決定して、その方針を基にWGで進めてほしい。

19ページ参照。出版物を作成するという事については決定でいいか。また、サミットで販売するという事でもいいか。テキストは3部作構成で作成し、その入門編をサミットまでに作る。入門編を作成するにあたり、支援者養成WGのメンバーで執筆するのは難しいという意見も聞いている。支援者養成WGで中心に進めていただくが、周防委員にアウトラインを作成していただき、行政、社協それぞれ執筆をするが項目によっては学識委員がそれぞれ分担する。直島委員、川上委員、私で手助けをしながらやっていけば間に合うのではないか。本については、WGを母体にしながらかプロジェクトチームを作った方がいいのではないか。最終的に決定した章立てによって、行政、社協はどなたに書いていただくかを決めていきたい。支援者養成WGの佐野副委員長もその方向でよいか。

(佐野委員) はい。

(西田委員長) 本とは別に、報告書は報告書で作成する。入門編と報告書は一部重なると思う。総社のひきこもりの程度など。それは重なってもいいと思う。最終的に、その出版物をテキストブックに位置付けるのか何なのかは後で考えたいと思う。今の時点でテキストブックを作らなければと考える必要はなく、出来上がったものを見て位置づけを決めたいと思う。

◆総社市社会福祉法人社会貢献活動推進協議会「ひきこもり調査の概要」について

(事務局) 39ページ参照。社協の佐野事務局長に参加報告をさせていただく。

(佐野委員) 7月に結成し、市内の社会福祉法人が社会貢献をしていくということで、特に今年度は、生活困窮とひきこもりの方への支援をしていこうとなり、事業が進んでいる。先日もフードドライブを実施し、たくさんの法人や市民の方から食糧品をいただき生活困窮の支援に充てている。その一つの取り組みにひきこもりの調査をするという話になった。

■閉会：あいさつ

(平野副委員長)